

みなさん、おはようございます。

2024年、新しい年が始まりました。

今年は新年早々、元旦から2日にかけて、大きな災害と事故が発生しました。地震災害や航空機事故で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、1日も早い安否不明者の発見と被災地の復旧を祈りたいと思います。

さて、本日から3学期が始まります。3年生は進路実現に向け、1・2年生は次の学年に向けての重要な時期になります。みなさんは、充実した冬休みを過ごすことはできましたでしょうか。今日は気持ちも新たに新学期を迎えたみなさんに、「ものの見方」という観点からお話をしたいと思います。

みなさんは、自分の顔を見たことがあるでしょうか。そのようなことを聞かれても、見たことがあるに決まっていると思っているのではないのでしょうか。それでは少し聞き方を変えてみます。みなさんは自分の顔を直に見たことはありますか。どうでしょうか。自分の顔だと思っているのは実は鏡に映ったものか、写真に映ったものか、動画に映ったものなのか。

人間は自分の顔を直接見ることはできません。自分の顔は最も自分の最も近くにあるにもかかわらず、あまりの近さゆえに直接自分の目で見ることはできないのです。

一般に遠くのもの見えにくいけれども、近くのものよく見えると思っはいいないでしょうか。しかし、実際には先ほどの自分の顔が見えない話のように、近すぎて見えないものもあるのです。むしろ遠くからのほうが全体像がよくわかる場合もあります。例えば山に登ったときに、山には岩や大木があって、山の一部は見えますが山の全体像は見えません。しかし、遠くから眺めると、山全体の姿を把握することができます。

みなさんは、自分のことが一番わかっていると思っはいますが、それは一部の真理ということになります。しかし自分という存在があまりにも近すぎて見えていないことに気づいていないかもしれません。先ほどの山の話のように離れて見ているほうが、案外、みなさんの全体像を把握していることもあります。

自分の中で自分の価値観や尺度をもってしっかり考えることはとても大切なことです。それと同時に自分には見えていないものが見えている、他者の意見や考え方を自分の中に一度受け入れてみることも大切なこととなります。

たとえば、水車はなぜ回るかが考えたことはありますか。それは水車の半分は川の水に浸かり、半分は外に出ているからに他なりません。それは半分は自分の頭で考え、半分は人の意見や考えを受け入れることに似ています。もし水車が川の水に浸かってしまえば、水車は回りません。水車がきちんと回るためには、半分は川の水に浸かり、半分は外に出ることが必要なのです。

バランスよく物事を考えるためには、自分の頭で考えると同時に他者の意見を参考にしたり、本を読んだりして、自分とは違う考え方を受け入れることも大切なことです。

これからは、自分の顔は直に見ることができないことを心に刻み、自分にはみえていないものがあるかもしれないという謙虚な気持ちをもって、他者の話や意見も尊重できるようになってほしいと願っています。

最後に、3学期は1年間の締めくくりの学期とともに、最後の仕上げの学期となります。全校生徒、ひとり一人が各自の目標に向かって努力を継続し、自己実現が図れることを願っています。